

# 教育研究所年報

第 28 号

2019

文教大学教育研究所

# 教育研究所年報 第28号

## 目 次

### 2018年度 事業報告

事業報告	3
第25回「世界の教科書展 特集 諸外国の英語教育」	4
世界の教科書展 公開英語模擬授業「小学校の授業を体験！」	5
世界の教科書展(桶川)：文教大学教育研究所コレクション	7
定例研究会	8
諸外国の教科書収集	10

### 2019年度 事業計画

事業計画	12
------	----



## 2018年度 事業報告

### <研究部> 研究部主任 山川 智子

#### 1. 「世界の教科書展」(学内・学外)の実施

例年通り、第25回「世界の教科書展 特集：諸外国の英語教育」を、越谷キャンパス学園祭(藍蔘祭)の期間中(11月2日～4日)に開催した。教科書、解説パネルの展示を行い、iPadにおさめた事前収録インタビューで来場者に全容を把握していただけるようにした。また、大友美奈先生(玉川大学語学学習指導員、品川区英語専科指導員JTE)と打ち合わせを重ね、小学校高学年対象の公開英語模擬授業を行っていただいた。

さらに、2016年度から行っている桶川での巡回展も引き続き開催した(12月8日～9日、「OKEGAWA hon+」にて)。地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となった。

#### 2. 『教育研究所年報』第27号の発刊

『教育研究所年報』第27号を5月に発刊した。2017年度事業報告として、第24回「世界の教科書展 特集：ラオスの教科書」、教科書展レクチャー「ラオスの教育と暮らし」、桶川での巡回展、『教育研究紀要』第26号、定例研究会、諸外国の教科書収集表、(公財)モラロジー研究所からの受贈教科書、2018年度事業計画を計14頁に掲載した。

#### 3. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関(他大学を含む)から計6名の客員研究員を受け入れた。

#### 4. 「定例研究会」の実施

2018年度は計2回の「定例研究会」を実施した(通算第96回～97回)。開催時期は2018年11月4日(日)および2019年3月2日(土)である。

### <研修部> 研修部主任 手嶋 將博

#### 1. 『教育研究所紀要』第27号の発刊

2018年12月20日付で『教育研究所紀要』第27号を発刊した。特集テーマは「主体的・対話的で深い学びをめざす教科用図書・教材の活用」で、テーマに関わる依頼論文5編、自由研究の研究論文6編、実践研究1編、実践報告1編という内容であった。

#### 2. 『教育研究所ニュース』の発刊

2018年度から年1回、10月に発刊。第48号は巻頭言を『安全教育』を再認識した2018年の夏」とし、教育研究所における海外の教科書所蔵数一覧、世界の教科書展と桶川市における世界の教科書の巡回展、定例研究会開催のお知らせ、『文教大学の授業』の執筆者紹介を掲載した。

#### 3. 『文教大学の授業』の発刊

第64号『共生』意識をもった教員を育てる国際理解教育～『異文化理解教育』と『海外教育研修』～(教育学部 手嶋將博)、第65号「見て学び、読んで学び、やってみよう」(国際学部 赤坂雅裕先生)、第66号『学び』かつ『思う』ために―中国古典学講義Ⅱにおける試み―(文学部 渡邊大先生)、第67号『理科の授業で伝えたいこと』～理科だからできること～(教育学部 小林秀明先生)。

#### 4. 教育研究所ホームページの運営・更新

前年度までと同様、教育研究所の各事業終了後は、速やかに研究所ホームページに掲載する情報の更新を行い、本研究所の事業活動を広く社会に発信することに努めた。

## 第25回「世界の教科書展 特集 諸外国の英語教育」

研究部主任 山川 智子

### 実施概況

越谷キャンパスの学園祭（藍蓼祭）で開催している「世界の教科書展」は、教育研究所の特色ある取り組みのひとつである。これまでの教科書展では、ある地域の、主として初等教育に焦点を当て企画・運営に携わってきた。具体的には、初等教育の全教科の教科書を展示し、教育制度や教科書の内容を紹介してきた。来場者との意見交換の場として、教科書展は発展してきた。

2018年で25周年を迎えた「世界の教科書展」では、世界各地の英語教科書に焦点を絞った。11月2日（金）から4日（日）にかけて、8202教室で開催した。世界各地（主に、韓国、タイ、マレーシア、ドイツ、フランス、スペイン、フィンランド）の英語教科書を展示した。日本の英語教育と比較できるように、日本の小学校と中学校で使用されている英語教科書も展示した。また、これまでの教科書展で収集した地域の英語教科書も展示することができた。英語教育に関する議論が社会で盛り上がりを見せる中、例年よりも多くの来場者を迎えることができた。中でも、子どもたちの姿を会場で見かけることが多かった。また、11月3日（土）と4日（日）には、公開講座として、小学生を対象とした英語の模擬授業も行われた。講師として、大友美奈先生（玉川大学語学学習指導員、品川区英語専科指導員 JTE）をお迎えした。

2016年度からの試みとして、教科書展開催中のレクチャーの他、インタビューの事前録画の入った iPad を会場に設置し、来場者が気軽に閲覧できるようにした。事前収録では本学の2名の先生方（手嶋先生、糸井先生）から話をうかがった。手嶋将博先生（教育学部）からは、マレーシアの教育制度や英語教育について、日本との比較を含めつつ、今後の展望を交えてお話しいただいた。糸井江美先生（文学部）からは、教員志望の学生への指導経験や、子どもに英語を教える時の心構えについて、大人が気づきにくい子どもからの視点を含めて話をうかがうことができた。事前収録を行ったことで、教科書展に向け、気持ちを高めることができた。教科書展に足を運んでくださった方たちも、気軽に iPad を操作して教科書展の内容を把握されていた。教科書を通して、世界各地の英語教育に関する理解を深めていただけたと実感している。

次世代を担う子どもの教育を映し出す教科書を比較することで、我々が学ぶことは多い。英語教育だけでなく、英語教育とそれぞれの地域の母語教育との関係はどうなっているのか、また教育への大人の関心や教員養成課程についても比較の対象としたいと考えている。会場では、各国の英語教科書を手にしていただきながら、言語教育の「いま」を体感していただけたと思う。



## 第25回「世界の教科書展」 公開英語模擬授業「小学校の授業を体験！」実施報告

研究部主任 山川 智子

### 実施概況

今年度で25回目を迎える「世界の教科書展」（2018年11月2日～4日）では、教育研究所がこれまでに収集した教科書の中から、主として、韓国、タイ、マレーシア、ドイツ、フランス、スペイン、フィンランドの英語教科書を展示した。

11月3日（土）と4日（日）には、公開講座として、小学生を対象とした英語の模擬授業も行われた。講師として、児童英語教育のプロフェッショナルである大友美奈先生（玉川大学語学学習指導員、品川区英語専科指導員 JTE）をお迎えした。大友先生には、小学校高学年の授業を想定し、両日とも30分間の模擬授業を行っていただいた。英語のみを用いた授業で、子どもたちに英語への関心を起こさせ、実際に英語を使ってみようという気持ちにさせる楽しい授業となった。たとえば、動画を用いながらアルファベットの読み方を練習したり、写真を多く活用したスライドでクイズ形式の問を発する流れを構築するなど、参加者が主体的に参加し、学びたくなるような授業が展開された。

授業には小学生の参加もあり、会場の雰囲気も和やかで活発なものとなった。また、小学校教員志望の学生、また中学高校の教員志望の学生も多く参加したので、彼らにとっては将来の自分の姿を大友先生に重ねることができたのではないだろうか。その意味でも非常に有意義な模擬授業となった。



## 第25回 世界の教科書展 会場アンケート(抜粋)

### 本学卒業生

- ・日本の教科書は日本語が目立っていた。他国の教科書は英語のみで書かれているので驚いた。
- ・日本の英語教育はヨーロッパの国々に比べて、劣っていると分かりました。日本では中学3年生位のレベルを、小学校高学年で扱っていることに驚きました。
- ・日本とは違う国の教科書を見ることが出来て、貴重な体験をしました。また各国のカリキュラムが詳細に提示されていて、とても興味深かった。
- ・在学中も教科書展に来たことがあるが、実際に教員になって改めて各国の教育制度は興味深いと感じました。
- ・各国の教科書がカラフルでビックリ！
- ・様々な国の教育の様子や、教科書の実物をみることができ良かった。

### 本学学生・院生

- ・展示されていた、英語教育を早い段階から行う国々の教科書の多くが、イラストを見ながら聞く(話す)形式になっているなど感じました。各国の教育現場についてのまとめも分かりやすく、内容言語統合型学習など、とても興味深かったです。
- ・イギリスの植民地だった国の英語教科書はイギリス英語で、アメリカの植民地だった国の教科書はアメリカ英語で書かれていて、興味深かったです。ノンネイティブスピーカーにとっては、理科や数学の専門用語が出てきて大変だろうなど感じました。
- ・フランス、ドイツはお互いのことを理解しようと教科書に載せ、関係を改善しようと努めたのはすごいと思った。今のお互いの関係に繋がっていると感じました。
- ・英語の教科書からも、国によって若干の違いがみられることが、興味深いです。例えば英語教育に熱心に取り組んでおられるという韓国の教科書を見ると、中学校で使う教科書でも日本の高校レベルのように見受けられ、比較することに別に意味はないと分かってはいたながらも、これが英語力の差が生まれていく要因なのかなと感じました。
- ・各国の特色ある教科書を見ることができました。同じ学年の教科書であっても、母国語が多く使われているのか、扱っている題材は何か等、各国で違いがあることが分かりました。各国のカリキュラムなどの情報もあり、分かりやすかったです。

### 高校生

- ・日本は英語の教科書に日本語が多く書かれているけれど、フランスは英語のみだった。
- ・英語の教育は、世界でもほとんど変わらないものだと思っていましたが、今回の展示を見て世界のレベルの高さがうかがえた。小学校卒業までに日本の中学校レベルの英語を全て習っていて、小学校でも日本より多く、そして実践的に学んでいたことが分かった。英語は世界の公用語になっていることを今回の展示でより現実的に感じた。

### 本学教職員

- ・毎年楽しみにしております。25周年おめでとうございます！
- ・イギリスの教科書(母国語が英語だから、日本でいう国語)に興味を持ちました。スペリングの練習のページがあって、日本でいう漢字練習みたいな感じかなと思いました。
- ・これほど教科書が集まっているのは驚きです。各国の特色が分かり、とても面白かったです。
- ・教科書が絵本のようにきれいで驚きました。

### 本学学生の家族

- ・国ごとによって違いがあるなど思いました。最近日本でも英語を早くから授業に取り込むようになっていますが、他国と比べると、まだまだなのかなと思いました。
- ・国によって違いがあることが分かりました。どの国も楽しく学べるように工夫されていると思いました。他学科の教科書も見たいです。ありがとうございました。

### その他

- ・職種として教育に関わっており、最近小学生に英語を教えることになった為、様々な国の教科書を見ることで得られるものがあるかと思った為、見学しました。掲示物や見本がとてもきれいに並べられていて、楽しく閲覧することができました。
- ・色々な国の教育制度が分かり、子ども達も興味をもったようです。
- ・多くの教科書が紹介されており世界各国で比べることができて、大変参考になりました。公立小学校では、ようやく英語教育が始まりましたが、全教科の教育内容を精選し、子ども達がゆとりをもって英語教育を楽しめるようにしてあげたいなど感じます。

## 世界の教科書展：文教大学教育研究所コレクション －特集 諸外国の英語教育－

日時：2018年12月8日（土）、9日（日）、10時から19時

会場：「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口駅前桶川マイン3階）

共催：丸善雄松堂株式会社

研究部主任 山川 智子

文教大学教育研究所の特色ある取り組みの一つが、越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催する「世界の教科書展」である。この教科書展は1994年度からはじまり、2018年で25回目を迎えた。この間、世界各地の教科書を収集し、保管してきた。この地道な活動が各方面にも知られるようになり、2017年度には、モラロジー研究所から教科書の寄贈を受けた。現時点でおよそ30か国・地域の教科書を保有し、その数は約1万冊に達する。教育研究所として、引き続き収集、保管活動を展開していく予定である。

これらの教科書を財産とし、教育研究所は「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献」を目的として、学内外の研究者の協力のもとに様々な研究に取り組んでいる。なかでも、藍蓼祭で開催される「世界の教科書展」は広く関心を集めることができ、研究所の特色あるイベントとなっているが、このコレクションの全貌を一般の方たちにも広く知っていただくべく、2016年度からは、学外でも巡回展を行っている。

今年で3回目となる巡回展は、同じく桶川の「OKEGAWA hon+」（桶川駅西口・桶川マイン3階）にて、12月8日（土）～9日（日）に開催された。これまでと同様に、丸善雄松堂株式会社教育・環境ソリューション事業部との共催という形で行った。

11月の藍蓼祭の展示と同様、諸外国の英語教科書を展示し、9日には公開講座を開催した。講座の内容は、手嶋将博先生（教育学部）による、比較教育の視点から各国の英語教科書を考えるヒントを提供するためのレクチャー、および藍蓼祭でも行っていただいた、大友美奈先生（玉川大学語学学習指導員、品川区英語専科指導員 JTE）による英語の模擬授業である。この教科書展の内容は、毎日小学生新聞でも紹介された（2018年12月16日掲載「変わる小学校の英語教育：埼玉県で考えるイベント」）。現代は、大学と地域とが連携し、情報共有しつつ、ともに教育を考えていく時代である。この新聞記事が地域の方たちに教育研究所の活動を紹介する機会となればと願っている。

世界の教科書を収集し、保管する研究機関は国内でも珍しく、近年はメディア関係者や他の研究機関からの問い合わせも増えている。一般の方たちからも連絡をいただくようになった。今後、このような貴重な資料をどのように活用し、どのような形で公開していくかに関しては試行錯誤の連続であるが、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という教育研究所の理念に向けて精進を重ねていきたい。



## 定例研究会

教育研究所所長 平 正 人

本年度の定例研究会は、昨年と同様の形式で、藍蓼祭（2018年11月4日）および年度総会（2019年3月2日）にあわせて開催した。それぞれの定例会における研究報告は次の通りである。第96回定例研究会（2018年11月4日）では、「保育者養成におけるビブリオバトルを取り入れた授業実践に関する研究」「社会教育主事の専門性に関する研究－実践の言語化から読み取る学習支援の専門的力量－」「基礎教育と普通教育」、第97回定例研究会（2019年3月2日）では、「大学と地域博物館における連携・資料活用に関わる実践的研究」「小中連携に関する研究（保健体育を中心に）」となる。

定例研究会は、学内外を問わず誰でも参加、聴講、質疑応答ができる場であり、学内の教職員、学部生、大学院生をはじめ、本学を卒業・終了したOB・OGや現役の教員の方々にも自由に参加いただき、活潑な質疑応答や議論がなされることが理想とする。定例研究会は今年度で計97回を重ねるが、「教育に関わる幅広い研究の推進とそれに基づく社会的貢献を果たす」という教育研究所の目的のもと、教育現場はもとより、教育をめぐるさまざまな状況の変化に応じて、常に新しい情報や知見を発信していきたいと考えている。



定例研究会における発表の様子

### 2018年度定例研究会発表要旨

<第96回 2018年11月4日（日）>

#### I 保育者養成におけるビブリオバトルを取り入れた授業実践に関する研究

綾 牧子

ビブリオバトルについて、遊びの要素を損なわずに保育者養成の授業に取り入れるための実践的な研究を行った。授業でグループ、およびクラスでビブリオバトルを実践し、学生からの自由記述等から分析をした。自由記述からは、ビブリオバトルを「遊び」として楽しみ、「おもしろさ」を客観的に捉えることができたことがわかった。今後は、クラスの雰囲気等に左右されずにルールを守って楽しむこと、継続的な実践によりコミュニティ機能を実質化させていくことが課題としてあげられる。

## Ⅱ 社会教育主事の専門性に関する研究-実践の言語化から読み取る学習支援の専門的力量-

阪本 陽子

社会教育実践の記録から、社会教育主事の専門的職務の基盤である「学習支援」の姿、関わり方の整理を行った。考察の対象とした昭和40年代後半の長野県松川村における同和学習の実践の様子から、その関わりには、①鍵となる発言を掴む、②発言により学習の流れに関わる（発問／解説）、③学習を構造的に見据える、という3点が見出された。一方で、社会教育主事養成課程における「学習支援」の力量形成は脆弱であり、今後は汎用性のある実践や養成のモデルを具体的に明らかにしていくことが求められる。

## Ⅲ 基礎教育と普通教育

矢作 由美子

1985年、川口自主夜間中学校が開校されて以来、33年が経過した。

34年目の今（2019年）4月に、川口市内に、公立の夜間中学校が開校する。これまでの経緯を含めて、自主夜間中学では、約33年間で、1000名以上の人たちに学ぶ機会を提供してきた。現在、川口自主夜間中学に通う生徒は約40人。約7割が外国人で、その過半数を中国籍が占めている。今後も公立夜間中学校とともに、継続が期待される自主夜間中学校についての現状と課題について、報告を行う。

<第97回 2019年3月2日（土）>

### I 大学と地域博物館における連携・資料活用に関わる実践的研究

～茨城県猿島郡境町 境町歴史民俗資料館における実践例～

加藤 紫識

本発表では、発表者および大学教員4名と博物館学芸員養成課程の大学生が協力・参加した境町歴史民俗資料館のリニューアル事業の過程と課題を報告した。本事業では、常設展のリニューアルやリニューアルイベントなどを通して地元住民への周知を図るなどの成果があった。一方、こうした取り組みでは、大学や学生が関わらなくなった後に地域博物館が独自の活動を継続できるかという課題が残される。継続可能なプログラムの検討・実施方法を視野に入れたゴールを定めることが重視される。

### Ⅱ 小中連携に関する研究（保健体育を中心に）

加藤 純一

平成28年「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引」では、「指導の一環性の確保」として学習指導要領の系統性を押さえた上での教科等の縦断的、横断的な系統性・連続性が求められている。このことを受けて本稿では、平成29年に出版された小学校と中学校の「新学習指導要領」を基に、体育・保健体育における運動・保健領域の小中接続を念頭に置いた系統図を示した。また、今回の改定において新たに示された系統性についても言及した。

## 諸外国の教科書収集

教育研究所では、設立当初より海外の教科書を収集してきた。収集した教科書は「世界の教科書展」に展示し、近年はマスコミからの問い合わせや取材依頼も多い。2018年度は、台湾、アメリカの教科書を合計314冊収集した。これまでに教育研究所が収集した諸外国の教科書は、次のとおりである。

### 1. 初等学校 (計 24 カ国 1872 冊)

(2019年3月31日現在)

国	教科	国語	社会	算数	理科	生活科	総合科	音楽	美術	体育・健康	実科	英語	日本語	道徳・宗教	情報	国際理解	その他	計(冊)
アメリカ		40	16	45	8		5										3	117
イギリス		20	12	8	12										10			62
インド		141		5			10			7				9	15			187
インドネシア		6	12	6	6				6	2		6		6			6	56
オーストラリア		60	7	23	18				6	10	6		3	3		1	7	144
オランダ		2	3	6	6							1					2	20
韓国		26	14	23	16	10		4	4	8	2	6		10			8	131
シンガポール				23	13					6		5						47
スイス		2		1														3
スペイン		6	4	6	6		4					6		7	2		1	42
スリランカ		7		5								6		6				24
タイ		12	6	7	6	1	1		2	6	6	6					6	59
台湾		18	12	21	12	6	18		12	18		20						137
中国		10	11	16	15			6	5			44		6			1	114
ドイツ		8		11		20	4	2	3			17		3				68
トルコ		22	19	18	16							18		19			22	134
バングラディッシュ		5		3								1					3	12
フィンランド		28	7	26	18							13						92
ブラジル		10	9	9	9				5			5		11			6	64
フランス			10	7								20						37
ポーランド		1		1	1													3
マレーシア		14	3	17	11	1				6		10		16			8	86
ラオス		10		10		10			5	5		6					5	51
ロシア		51	1	27	3	26		4	9	4	11	36			7		3	182
計		499	146	324	176	74	42	16	57	72	25	226	3	96	34	1	81	1872

※冊数には教科書の他に教師用指導書、ワークブック等含まれています。

※トルコの教科書については、教育制度の理由から小中学校で使用されている教科書の数値。

## 2. 中等学校(前期・後期) (計 15 カ国 707 冊)

(2019年3月31日現在)

国	教科	国語	社会	歴史	地理	公民	数学	科学	生物	化学	物理	音楽・美術	体育	家政・技術	外国語	道徳・宗教	情報	その他	計(冊)
アメリカ			1				1												2
イギリス		8	8	3	3	2	4	6	1	1	1	2			2		2		43
インドネシア		3	3			3	3	3							3	3		3	24
韓国		5	2	2			3	3				4	2	3	5	2		3	34
シンガポール				3	7		3		1	4	2			2	4				26
スペイン		5		2	3	1	5	2	1		2	1	4	3		4			33
タイ		8	4				10	5				2	2	6				3	40
台湾		9	18	3	3	3	10	17	1			6	6		12			6	94
中国		9		16	8		10		6	5	7	8			11			1	81
ドイツ		3	2	31	9		8	2	3	2	2	5		1	8		2		78
ネパール							1	1							1				3
フィンランド		3	4	3	3		6		5	1	1	4	1	1	6	1		1	40
フランス		3		2	1		2								20				28
ラオス		14		7	7	7	8		3	3	3		1	8	18			15	94
ロシア		15	6	9	4		8		4	4	3	10	3	2	5	6	2	6	87
計		85	48	81	48	16	82	39	25	20	21	42	19	26	95	16	6	38	707

## 3. 公益財団法人モラロジー研究所からの受贈コレクション (計 18 カ国 7249 冊)

## 1) 本学研究所のコレクションに含まれていない国の教科書

国名	受贈冊数	国名	受贈冊数
香港	236 冊	旧東ドイツ	48 冊
イタリア	497 冊	旧西ドイツ	256 冊
カナダ	266 冊	旧ソ連	280 冊
スウェーデン	81 冊		

## 2) 本学研究所が所蔵しているものの、その数が少ない国の教科書

国名	受贈冊数	所蔵冊数	国名	受贈冊数	所蔵冊数
アメリカ	1489 冊	119 冊	スペイン	150 冊	75 冊
中国	832 冊	195 冊	フィンランド	97 冊	132 冊
韓国	549 冊	165 冊	ロシア	39 冊	269 冊
ドイツ	760 冊	146 冊	フランス	616 冊	65 冊
イギリス	735 冊	105 冊	スイス	150 冊	3 冊
台湾	168 冊	231 冊			

## 2019年度事業計画

### <研究部> 研究部主任 山川 智子

#### 1. 「世界の教科書展」の実施

世界各地における教育の現状を理解するための資料として収集した教科書、および解説パネルを展示し、海外の教育事情を紹介する。例年通り、「世界の教科書展」を越谷キャンパス学園祭（藍蓼祭）で開催する。2019年度は台湾の教科書を展示する。さらに、2016年度からはじまった学外での展示として、「OKEGAWA hon +」（桶川）でも「世界の教科書展」を開催する予定である。

#### 2. 「名著の読みかた」（シリーズ企画）の実施

今年度から新規講演事業「名著の読みかた」（シリーズ企画）を立ち上げる。夏と冬の年2回、「OKEGAWA hon+」（桶川）で開催する予定である。

#### 3. 『教育研究所年報』第28号の発刊

2019年5月に発刊予定である。世界の教科書展の報告、定例研究会報告など、前年度の活動報告および今年度活動計画を中心に、13頁にまとめて掲載する予定である。

#### 4. 客員研究員の受け入れ

国内の学術機関（他大学を含む）から、5名の申請者があった。教育研究所会議にて審議を行う予定である。

#### 5. 「定例研究会」の実施

2019年度は年1回（藍蓼祭期間中、通算第98回）の「定例研究会」を実施する予定である。

### <研修部> 研修部主任 手嶋 將博

#### 1. 『教育研究所紀要』第28号の発刊

『教育研究所紀要』第28号の特集テーマは4月の研究所会議にて正式決定し、5月中旬に、特集テーマに関する論文の依頼、および投稿論文等の募集を開始する。原稿締め切りは9月下旬で、2019年12月に発刊予定。

#### 2. 『教育研究所ニュース』49号の発刊

本研究所の事業の進捗状況や活動の報告を中心に、学内外にそれを知らしめていく広報誌としての役割を担う本誌は、5月に『教育研究所年報』が出る関係から、2018年度より年1回の発刊となり、2019年10月中旬に発刊予定。

#### 3. 『文教大学の授業』68、69、70、71号の発刊

引き続き、文教大学の教員の授業を学内外に紹介していく。2019年度は、健康栄養学部・松田素行先生（5月・68号）、人間科学部・谷島弘仁先生（7月・69号）、教育学部・山本浩二先生（10月・70号）、文学部・渡辺敦子先生（1月・71号）に執筆いただく予定である。

#### 4. 教育研究所ホームページの運営・更新

2019年度も引き続きコンテンツの整備と発信内容の精査、積極的な情報発信に力を入れていく。

## 2018年度

所 長	平 正人			
研究部主任	山川 智子			
研修部主任	手嶋 將博			
研 究 員	太田 和敬	宮田 浩二		
事 務	紀井 佳奈子	河口 恭子		
客員研究員	綾 牧子	加藤 紫識	加藤 純一	
	栗原 保	阪本 陽子	矢作 由美子	

## 2019年度

所 長	平 正人			
研究部主任	山川 智子			
研修部主任	手嶋 將博			
事 務	河口 恭子			
客員研究員	綾 牧子	阪本 陽子	清水 香保里	
	中川 真規子	矢作 由美子		

教育研究所年報 第28号

---

発行日 2019年5月1日

発行者 文教大学教育研究所  
〒343-8511 埼玉県越谷市南荻島 3337  
電話 048-974-8811

印刷 有限会社 カワカミ印刷  
電話 048-976-0007

---